

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201353		
法人名	社会福祉法人 わかば会		
事業所名	グループホーム ベルフラワー		
所在地	〒036-8232 青森県弘前市大字城南5丁目13番地15		
自己評価作成日	平成30年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の能力に合わせた役割や余暇活動を行っています。ホールはガラス張りとなっているため、季節ごとの風景や庭の花など鑑賞できるようになっています。ホールに面したテラスにも出入り出来るようになっており、お茶会や行事などをして楽しめるようにしています。園内では季節に応じた飾り付けをして掲示板には入居者の作品を貼っており、ソファも設置してつるげるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

モダンな外観の建物でホールはガラス張りで、室内は明るく開放的な空間となっており、季節ごとに変化する風景や庭園の花などが鑑賞でき、居心地がよい環境となっている。書道教室で入居者が書いた作品などが廊下に展示されており、各々がくつろげるように室内にソファを設置している。職員がグループホームの様子をブログで紹介して、入居者の生活の様子を発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本としながら、グループホーム独自の理念を作り上げ、日々職員間で確認・共有している。	各所に理念を掲示し、職員個々で理念の把握に努めている。職員も理念について実践出来ているか個々に振り返っている。	職員が理念を共有できる機会を設け、理念に基づき職員が統一したケアを実践できるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退社時及び散歩やテラスに出た際など、近隣の方へ声をかけている。	散歩中に近隣の方と挨拶を交わしたり、農家の方から採れたての野菜を貰う等、日常的に交流が行われている。また、法人で行うお祭等のお知らせを地域に届け、多数の地域住民が参加する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内役員を窓口で情報の提供を行い、認知症の方の相談があった際は、お話を聞いてケアの方法や他機関への紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や入居者様の様子を紹介し、意見交換を行なっている。会議内容は職員に周知し、職員間でも意見交換、サービスの見直しをして改善に取り組んでいる。	会議において委員から地域の方の習字教室の講師ボランティアの紹介など、有意義な情報が提供され、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいた際に報告・相談を行っている。また、電話や直接出向いて相談等を行っている。	運営推進会議への参加や、空き状況の報告等を定期的に行い、相談等があった場合は気軽に話せるような協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い理解を深めながら、身体拘束にならないように見守りや介助をし、職員全員でケアを実践している。身体的拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回開催している。	研修会の実施や委員会を設置し、身体拘束をしない適切なケアを職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待防止に努めている。入浴や更衣時に身体確認をするとともに、言葉での虐待にも注意しながら、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて制度の確認と必要性を周知している。また、日常生活自立支援事業を活用している入居者様がいるので、各関係機関と連携をとって支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望があったお客様・ご家族には、状態確認を行うとともに、重要事項説明書を説明し事前に理解を得ている。契約時も更に説明を重ね同意を得ている。契約解除時も同様に相談・説明を実施し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に運営推進会議への参加をしていただき、その際に意見・要望等についても取り上げている。また、事業所内に苦情処理ポストを設置し運営に反映させている。	入居者家族の訪問時や運営推進会議開催時等の他、日々報告する機会を利用し、意見や要望を取り上げ、運営に反映させている。理髪や外泊、冬期間の外出等について意見を頂き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部署会議を開催し、意見・要望の場を提供している。また、申し送り時にも職員間で情報の共有・意見交換が出来る環境作りに努めている。	毎月の職員会議を、意見や要望を聞く機会としており、日々の申し送り時においても意見等が出せるようにして、運営に反映できるようにしている。業務改善を目的とし、記録様式の見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行っている。また、法人会議の場にて、福利厚生や勤務体制について検討し、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で各種研修を実施している。また、外部研修の案内を回覧し希望を取るとともに、必要に応じて参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームを訪問また、電話などにより情報・意見の交換を行なって、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や担当ケアマネより情報を収集し、入居前には、ご本人と面談し疑問や不安に思っていることなどを伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、問題や要望等を伺い、ご本人と見学していただくことを勧めている。その時にまた、不安等を伺って、入居後には不安がないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居までに長時間かかる場合もあることを説明し、他グループホームへの申込みも勧めている。また、現状で他のサービスが受けられる場合は、そのサービスについても説明し、状況によっては紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、入居者様それぞれの役割を一緒に行ったり、考えてもらいながら、お互いに支え合って過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や面会時には近況報告し、ご家族様からの要望を聞いて出来る限り家族も一丸となって共同生活を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人、スタッフが協力して馴染みの方の面会や訪問に努めている。また、ご家族様も参加できる行事を企画したり、場合によっては外出支援も行なっている(地域行事、法人行事等)	入居者の古くからの知人と会いたい方について、実現できるように支援している。県外在住の身内の方と外出したい希望を確認した際は、希望を叶えるため連絡調整し実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの認知レベルを把握するとともに、個人の性格や行動を理解し、ひとつの作業を複数で行えるように工夫・援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、他機関への紹介・連携を図り、多種の介護保険施設の利用について相談・援助ができる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意思を尊重するとともに、ご家族様や関係者からも情報を収集し、暮らし方・過ごし方を検討している。	マンツーマンになるタイミングで入居者から意見や要望を聞き、申し送り簿に書き留めて担当者に伝達し、希望及び意向の把握に努めている。アセスメントも参考にし意向を探っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査票のみならず、お客様との会話やご家族様から、その他の情報を収集し、その人に合った生活スタイルに近づけるよう個別ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集を基に生活習慣を理解し、表情・言動・行動等の観察と記録によって心身状態を把握し、どのような過ごし方が心地良く、その人らしい生活になるかを考え対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時に近況を伝え、ケアや生活の意向を聞き、入居者様からも普段より要望を聞いて意見を取り入れる、また、定期的・随時にカンファレンスを開催し、意見を反映したケアプランの作成に努めている。	家族の面会時などに要望や入居者の日々の様子等を聞き出し、計画に反映させている。毎月モニタリングを実施し、職員会議等でモニタリング評価の意見を聴いている。また、状態の変化が現れた場合は、必要に応じて随時計画の変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子をPCの個別記録に入力し、毎月モニタリングを行い、個々が抱えるリスクや問題点を話し合い、情報の共有を図り、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊にも対応し、その時々状況・要望に応じてより良いサービス提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会と連絡を取りながら、地域行事に参加できるよう努めるとともに消防や民生委員にも協力を依頼し、安全でより良い生活が継続できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には状態報告書を作成し、日頃の様子や変化等を伝えている。また、必要に応じて各医療機関へ看護師・管理者から連絡し状態が明確に伝わる体制をとっている。	入居者及び家族の希望を優先し以前からのかかりつけ医の受診を支援している。また、家族の希望に合わせ、嘱託医の往診もできるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている老人福祉施設の看護師が担当看護師となり、毎朝の申し送りやカンファレンスに出席し、情報を共有している。また、特変時や問題発生時には、随時連絡を取り合い、処置や受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から情報交換や相談をし、医療機関・ご家族様と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期段階から本人・家族・医師と話し合い、事業所で出来ること、出来ないことを説明し、今後の方針を検討し、理解を得られるようにしている。また、恒常的な医療行為等により対応できなくなった場合も想定し、かかりつけ医の指示を仰いだり、他機関への紹介やサービスについても説明を行っている	重度化した場合や終末期の対応について、本人や家族の要望を聞き、医療機関等への紹介も含めて相談支援することを入居時やその都度説明し、同意を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で緊急時の対応について手順等を確認している。また、法人所属看護師の指導にて急変時の対応や勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、法人全体で避難訓練を実施しており、グループホームが出火場所となつての訓練も実施している。また、災害や離園による所在不明を想定して、地域住民用の連絡網を作成し配布、協力を依頼している。	地域の方々に協力していただき、年2回夜間を想定した消防訓練を実施している。火災になった場合の避難手順の確認が行われている。また、協力者として民生委員や町会長の連絡先を記載した緊急連絡網も整備し有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、意思を尊重するとともに、その人に合った対応に考慮して言葉掛けを行っている。	職員が居室に入室する時にはドアノックし、プライバシーに配慮している。また、入居者のアセスメントをもとに、生活歴を確認してその方に合わせた呼び名や声掛けを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを表現しやすい雰囲気作りに努め、生活の中に選択肢を設けている。また、アンケートを実施し、不満や要望がないか聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の大まかな時間は決まっているが、入居者の希望や意見に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧の手伝いを行ったり、行事や外出の際には一緒に衣類を選択し、おしゃれができるよう支援している。月に1度は床屋が来園するので、希望に応じてヘアークットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人施設の厨房から提供されているが、一部の調理は園内で行っており、準備・片付けを入居者の方にも手伝っていたている。	毎月の行事食や毎月調理活動日があり、入居者が自ら野菜を刻み、みそラーメンを調理したり、クリスマスケーキを作るなどして、調理から食べるまで、一貫して食事を楽しむことができる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶会の時間を設け、水分が確保できるよう菓子類を添えて提供している。食事は好みや体調、嚥下レベルに合わせた物を提供しており、好き嫌いが多い方には代替を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれのレベルに合わせた口腔ケア(うがいやブラッシング)への声掛け、ケアの用具の準備、援助や介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを観察・把握し、声掛け・誘導を行っている。尿・便意のある方には、居室内にポータブルトイレを設置等の配慮をし、なるべく残存機能を活かしてオムツに頼らない援助に努めている。	個人ごとに排泄表を作成し、職員間で共有している。また、夜間時もおむつに頼らず、居室にポータブルトイレを置いて、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の提供の仕方を考慮し、適度な運動・腹部マッサージなどを実施し、自然排便を促せるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者の体調を確認したうえで、入浴を促し、無理強いすることなく、ご本人の意向に沿った形で入浴できるように支援している。	入居者の気分や体調に応じて、週2回は入浴できるように支援している。受診や外出に合わせて入浴日を相談して調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を有意義に過ごしていただき、落ち着いた環境と対応にて、安眠・休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全体で目的や用法、副作用について周知している。また、服薬変更時には詳細な記録と情報の共有で変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・趣味・特技を活かし、生活リハビリの計画を実施している。外出や行事で気分転換を図り、季節感のある食事や作品作りをして、個々の満足感・達成感を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に希望など取り入れながら、定期的に外出行事を計画実施している。入居者全員参加を基本としているが、買い物など、個々の要望が異なる場合には、ご家族の協力を得るなどしながら、できるだけ要望に沿えるよう支援している。	定期的に外出行事を実施している。また、個々に入居者から要望があった場合は、随時外出支援を行える体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族から希望があれば、承諾を得て個人管理していただいている。管理できない入居者には施設で立て替えて、買い物などを楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、電話・手紙の連絡体制は自由に利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感がないように温度・湿度調整し、日差しやテレビの音量にも配慮している。また、混乱を招かないよう張り紙をしたり、生活感・季節感を取り入れながら、1階・2階の空間作りに変化をつけている。	リビングは天井が吹き抜けで大きな窓から外の明かりが入り、グループホーム内は冷暖房が整えられ、モダンなデザインの建物と相まって、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテラスが面しており、夏は自由に出入りできる状態にある。各階にはソファや椅子・テーブルなどを配置し、好きな場所で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自が使い慣れた衣装ケースや電気製品、装飾品などを持ち込み、配置もご本人の希望に合わせて過ごせるようにしている。	使い慣れた衣装ケースを使用する入居者もあり、入居者の日常生活動作に合わせて家具の配置がされ、各居室には加湿器が置かれているなど、居室が心地よくなるような配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやポータブルトイレの配置、整容がしやすいように洗面所に椅子を置くなど、個々の身体機能を活かして、できるだけ自分で行えるような工夫・支援をしている。事故の危険性に環境面で配慮している。		